

平成 18 年 1 月 27 日

オリエンタル酵母工業 第 3 四半期連結決算発表

第 3 四半期までの売上高は 450 億 50 百万円（前年同四半期比 3.2% 増）で、増収となり過去最高を更新、通期業績予想は公表予想通りの見込

平成 18 年 3 月期第 3 四半期決算

オリエンタル酵母工業(株)（本社：東京都板橋区、社長：内藤利邦、資本金：26 億 17 百万円）の平成 18 年 3 月期第 3 四半期までの業績につきましては、昨年 6 月に研究開発体制の充実と製パン製菓業界を主体に新製品や新メニューを総合的に提案できるプレゼンテーション施設として P & B センターを開設しその有効活用を図るなど、各部門においてマーケットニーズを的確にとらえた新製品投入や新技術導入を進めるとともに、TPM 活動（トータル プロダクティブ マネジメントによる企業革新）を当社グループの各地区で展開し、引き続き業務改善やロスの削減に取り組みました。

売上高につきましては、食品部門はイースト、フラワーペーストなど製パン用原料素材や健食市場向けミネラル酵母が堅調に推移し、また昨年 7 月から事業を開始いたしましたエスケーフーズ(株)の業績も加わり、前年同四半期を上回りました。バイオ部門は、バイオニュートリショナル製品は順調でしたが、養魚飼料や飼料受託事業は低迷し、ほぼ前年同四半期並となりました。

その結果、売上高は 450 億 50 百万円（前年同四半期比 3.2% 増）と前年同四半期を上回り増収になりましたが、経常利益は中間期の鶏卵価格を始めとする原料コストの上昇や新設投資に係わる経費増により 17 億 95 百万円（前年同四半期比 9.7% 減）、四半期純利益は 10 億 39 百万円（前年同四半期比 18.5% 減）と減益になりました。

平成 18 年 3 月期通期連結業績予想

食品部門では製パン市場の需要低迷により、当社グループの業績も厳しいものがあります。当社の発酵技術と海外導入技術を融合した新たな発酵種を始めとした新製品提案や、P & B センターを活用した積極的なソフト提案により、引き続きパン市場の需要喚起を図ってまいります。また、酵母機能利用製品は、健食市場や一般食品市場にも尚一層拡販を進めてまいります。

バイオ部門も製菓業界の合従連衡の影響もあり依然厳しい状況が続いておりますが、組換え酵素新製品の市場投入や遺伝子改変動物作出などのラボラトリーアニマルサイエンス事業に注力してまいります。

その結果、通期の業績予想は公表予想通り売上高は 605 億円（前期比 4.4% 増）で、前期を上回り過去最高を更新する見込です。また、経常利益は 26 億円（前期比 4.1% 減）、当期純利益は 15 億円（前期比 10.0% 減）の見込であります。

以上